



第8108号

2024年7月11日(木)

## 中国EVが「大陸」を席卷する日

エコノミスト 西谷 公明

5月中旬、中央アジアのカザフスタン(人口約2000万人)を訪問した。西のウクライナでは砲声が止まないが、ユーラシア大陸における通商の潮目は大きく動いている。

### ◆BYD、ウズベクで現地生産開始

「Changan」「Chery」「Haval」と聞いて、何のことかすぐに分かる日本人は少ないはずだ。ところが、カザフスタンでは、華為(Huawei)や小米(Xiaomi)のスマートフォンと同様、普通に知られている。ハイウェイに面する高台の好立地に、モダンな自動車ショールームがいくつも建っている。

同国における2023年の新車販売台数は約20万台。かつて日本のトヨタ自動車や日産自動車の中古車人気の余勢を駆って高いシェアを占めていたのも今は昔。韓国車(HyundaiとKia)が市場のほぼ40%を占めて、「国民車」の地位を築きつつある。

そして、この1年で急速に販売を伸ばしているのが、上記の中国車にほかならない。

カザフスタンと並ぶ中央アジアのもう一つの大国、ウズベキスタン(人口約3600万人)では、米国テスラに代わって世界最大の電気自動車(EV)メーカーとなった中国の比亞迪(BYD)が6月に現地生産を開始した。

欧米では、手頃な価格でテクノロジー満載の中国製EVの進出は脅威以外の何物でもない。しかし、ここでは中国との摩擦や制裁関税の声などは聞かれない。

BYD車は近い将来、ウズベキスタンからアフガニスタンを含む周辺国、近隣のコーカサス諸国へも輸出されるだろう。同社は既に西のハンガリーやトルコに工場を建設することも決めている。

### ◆ロシアでも存在感高める

北のロシアでは、ウクライナ侵攻に伴う経済制裁(新車の出荷停止、現地生産からの撤退)により、日本や欧米メーカーが抜けた空白を、国産車のLadaと中国車が埋めている。

ロシアにおける23年の新車販売台数は113万台だったが、そのうち中国車が45万台を占めて、市場シェアは40%を超えた。さらに24年第1四半期のシェアは42%で、国産メーカーを凌駕(りょうが)した。

自動車の販売は商品がなければ成り立たない。モスクワ市内では、昨日まで日本車や韓国車、欧米ブランドを取り扱っていた専売店の多くが、今では続々と中国ブランドに乗り換えている。

### ◆中国の技術を起点とする「もう一つの世界」

中国の習近平国家主席が、新エネルギー車(NEV)で「自動車製造強国」を目指すと宣言したのは、ウクライナでマイダン政変が起き、ドンバスで内戦が始まった14年5月のことだった。

それから10年が過ぎ、新型コロナ禍の霧が晴れた今、私たちはグローバルな産業の潮目の変化の真ただ中にいる。

中国の成功を無邪気に褒めたたえるつもりはさらさらないが、今や中国製品は、西側諸国に劣らない高い技術に裏付けられていると見た方がいい(乗ってみるとよく分かる)。

海の向こうの大陸に、中国の技術を起点とする「もう一つの世界」が形成されつつあるとの思いを新たにした次第である。

(にしたに・ともあき)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003